

## 杏林医学会 第13回例会 開催報告 パピローマウイルスを基点に癌の分子生物学的研究

医学部病理学教室  
磯 村 杏 耶

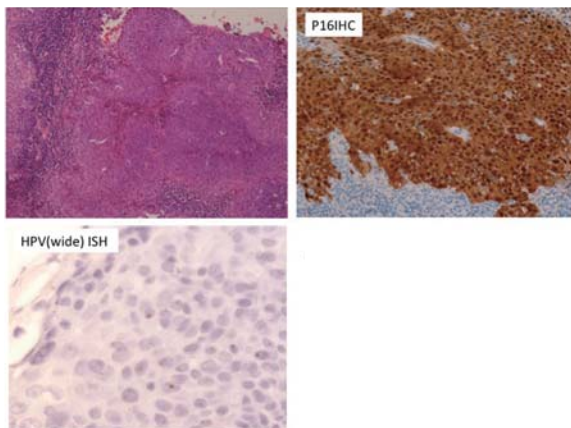
第13回杏林医学会例会が、2015年7月18日に基礎棟2階病理学教室演習室にて開催された。秋田大学大学院医学系研究科器官病理学講座教授 兼 同大学付属病院病理部長の後藤明輝先生をお招きし講演いただいた。後藤先生は東京大学医学部医学科を平成7年にご卒業後、平成11年から2年間、本学病理学教室の助手を務められた。平成13年に東京大学に戻り、米国国立がん研究所ヒト発がん研究室に留学され、その後、平成23年より現職となられている。

講演テーマは、「子宮頸癌以外の癌とパピローマウイルスの関連」で、長年の研究データを基に丁寧に解説された。概略は以下の通り。1)パピローマウイルスは子宮頸癌のみならず、諸臓器の癌の発生に関わっている。2)

なかでも中咽頭癌、肛門癌、陰茎癌については、その発生にはほぼ確実に関与しており、これらの癌についてはパピローマウイルスを基点にした分子生物学的研究とともに、その診断治療についての臨床研究を進めることが期待される。3)肺癌、食道癌、泌尿器癌については、パピローマウイルス感染の関係が明らかではないが、標準化された手法で感染率を調査する必要がある。

例会には、病理学関係者以外にも耳鼻咽喉科学の先生や大学院医学研究科の学生が参加し、活発な討論がなされた。

終了後には杏林大学病理学教室同窓会を兼ねた懇親会が外来棟6階のレストランガーデンテラス日比谷松本楼にて行われ、楽しい一時を過ごした。



パピローマウイルスと頭頸部癌  
63歳男性 中咽頭（扁桃）癌  
P16の過剰発現とHPVのintegration像をみとめた。



講演中の様子（立って説明中の後藤明輝先生）